

1 学校運営の中期目標

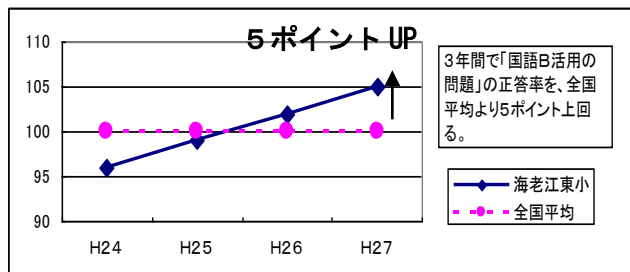
【視点 学力の向上】

国語の活用力の向上（カリキュラム改革関連）

- A 平成27年度の全国学力・学習状況調査における「国語の主として活用の問題」の正答率を全国平均より5ポイント向上させる。

※H24：本校53.5
全国55.6

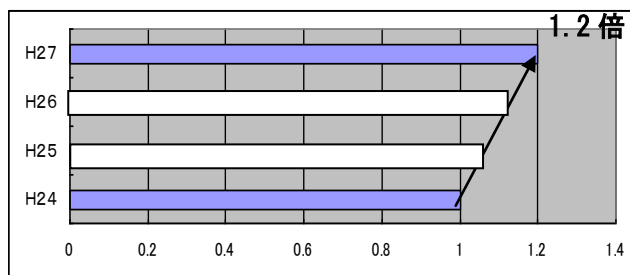
国語の活用力の向上



自主学習の定着（カリキュラム改革関連）

- B 平成27年度末に、児童一人当たり1日の家庭学習の時間を平成25年度はじめの1.2倍にする。

自主学習の定着



- C 児童一人当たり1日の家庭学習の時間の調査を年度初めに実施するとともに、家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年に応じた自主的な学習の仕方を理解させる。平成27年度末の学校アンケートの「自主学習の仕方がわかった」の割合を70%以上にする。

- D 平成27年度末の学校アンケート調査で「家で学校の予習・復習をしている（どちらかといえば、している）」の割合を50%以上にする。

※H24本校：予習33.3%—復習40.4%
全国：予習40.5%—復習50.2%

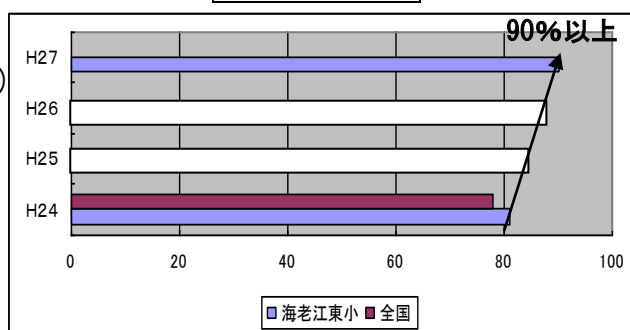
【視点 道徳心・社会性の育成】

自尊感情の向上（カリキュラム改革関連）

- E 平成27年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがある」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

※H24本校：81.0% 全国：77.8%

自尊感情の向上



あいさつの励行と定着（カリキュラム改革関連）

F平成27年度末の学校アンケートで、「すすんであいさつをしている（どちらかと言えばしている）」と答える児童の割合を90%以上にする。

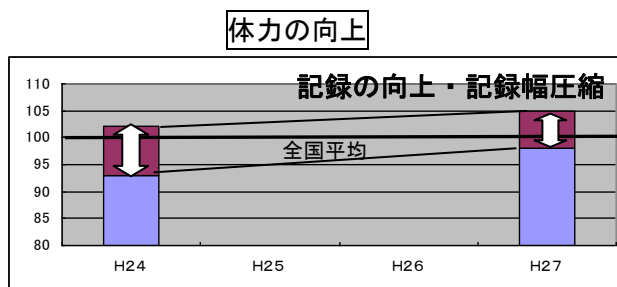
いじめへの組織的対応（マネジメント改革関連）

G学校で認知した「いじめ」について、解消に向けて組織的に対応している割合を100%にする。

【視点 健康・体力の保持増進】

体力の向上（カリキュラム改革関連）

H平成24年度の体力テスト（5年生）の各種目の結果が全国平均の93～112%の幅にあるのを、平成27年度までに98～115%に向上させる。

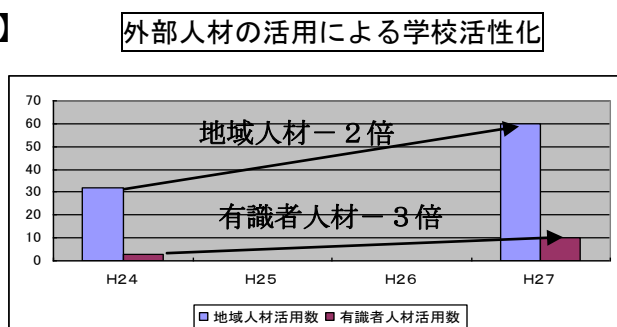


【視点 外部人材の活用による学校活性化】

体験活動の充実（ガバナンス改革関連）

I平成24年度の地域人材活用数を2倍にして子どもの体験活動の場を増やすことで、「体験が将来に役立った（どちらかと言えば役立った）」の割合を80%以上にする。

※H24地域人材の活用数：のべ32名
→ 60名以上



教職員の資質向上（学校サポート改革関連）

J平成24年度の学識経験者人材活用数を3倍にして教職員の研修の場を増やすことで、「授業や指導に役立った（どちらかと言えば役立った）」の割合を80%以上にする。

※H24学識経験者人材の活用数：のべ3名
→ 10名以上

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

a 平成 26 年度の全国学力・学習状況調査における国語の主として活用の問題の正答率を全国平均並みに向上させる。※H24：本校 53.5、全国 55.6 (カリキュラム改革関連)

b 児童一人当たり 1 日の家庭学習の時間を 5 %増やす。 (カリキュラム改革関連)

c 家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年応じた自主的な学習の仕方を理解させる。学校アンケートで「自主学習の仕方がわかった」の割合を 50 %以上にする。
(カリキュラム改革関連)

d 学校アンケートで「家で学校の予習・復習をしている(どちらかといえば、している)」の割合を 40 %以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

e 平成 25 年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがある」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 84 %以上にする。
※H24 本校：81% 全国 77.8% (カリキュラム改革関連)

f 学校アンケートで、「すすんであいさつをしている(どちらかと言えばしている)」と答える児童の割合を 70 %以上にする。
(カリキュラム改革関連)

g 学校で認知した「いじめ」について、解消に向けて組織的に対応している割合を 100 %にする。
(マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

h 平成 24 年度の体力テストの各種目の結果を分析し、弱点を補う運動を考案し、児童が平素から体力づくりに取り組める環境づくりを行う。
(カリキュラム改革関連)

【視点 外部人材の活用による学校活性化】

i 平成 24 年度の地域人材活用数を 1.5 倍にして子どもの体験活動の場を増やすことで、「体験が将来に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を 70 %以上にする。
※H24 本校地域人材活用数：32名 (ガバナンス改革関連)

j 平成 24 年度の学識経験者人材活用数を 2 倍にして教職員の研修の場を増やすことで、「授業や指導に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を 70 %以上にする。
※H24 本校学識経験者人材活用数：3名 (学校サポート改革関連)